

よみういしんぶん

# 異才の子のびのび育て

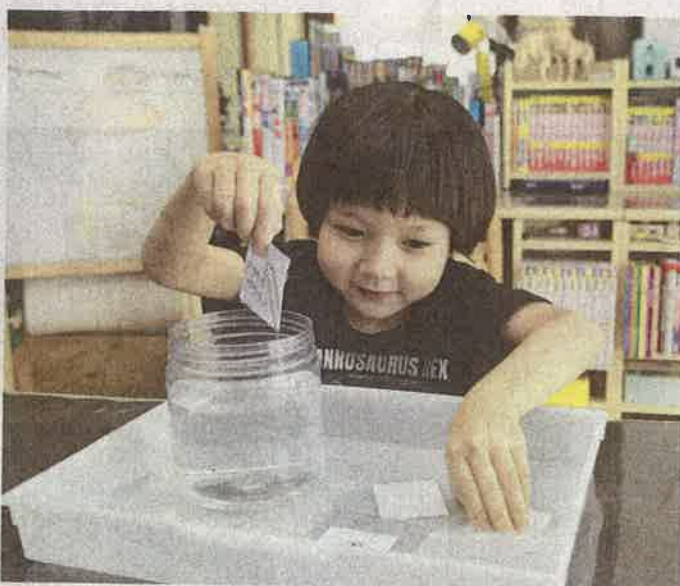
## 愛大教授「ギフトテッド」学習支援

特定分野に突出した才能を持つ「ギフトテッド」と呼ばれる子どもたちの学習を支援しようと、愛媛大の隅田学教授（科学才能教育学）が、自然科学の学習プログラム「キッズアカデミア」を開講している。高い能力を持つ一方、周りになじめず孤立して本人や保護者が悩む場合も多く、「異才」をのびのびと育てる学び場づくりを目指す。（栢野ななせ）

■幼稚園で中学レベル  
8月下旬、オンラインで開かれたキッズアカデミアサマースクール（全4回）の最終日。幼稚園年長から小学3年までの10人が画面上で、カビの観察、色水の温度変化といった自由研究を発表し合った。

松前町の幼稚園年長、西村風星ちゃん（6）は、水の中に入れた絵の見える方に興味を持った。絵をナイロン袋やラップ、セロハンテープで覆って水中に入れた結果を比べ、「袋の中に空気が入っていると絵が消えて見える」と考察。隅田教授は「光の屈折についてよく考えた。中学生レベルの論理が含まれている」と高く評価した。

風星ちゃんは、大好きな



水中で絵がどう見えるのか自由研究に取り組む風星ちゃん（松前町で）

恐竜の図鑑を熟読して種類や体長を暗記。小学2年の算数ドリルにクイズ感覚で取り組む。だが、言葉の発達は遅く、友達と会話がかみ合わず周囲から浮いてし

まうこともあった。知能検査で推理力や空間認識力が高い一方、話を理解することは苦手だと判明した。母の梓さん（38）は「どうすれば長所を伸ばしてあげられるか」と悩み、キッズアカデミアにたどり着いたといい、「医者から『小学校でもしんどい思いをするだろう』と言われ、途方に暮れていた。認めてくれる場所や相談できる人に出会えて安心した」と話した。

## 本人、保護者 孤立の悩み多く

■遅れる日本の対応  
ギフトテッドの子どもたちは、発達障害と誤診されたり、周りになじめず不登校になったりするケースがある。保護者も、高い能力を自慢していると勘違いされることを恐れ、悩みを打ち明けられず孤立しがちだ。海外では専門の教育プログラムが導入されている国もあるが、日本では認知が進んでいない。ようやく文部科学省が7月、有識者会議を開いて実態の把握や指導方法の検討を始め、支援に向けて動き出した。

隅田教授は米国の大学と共同で科学教育プログラムを開発し、2010年から試験的に実施する。今年度はウェブサイトを一新。意欲や能力の高い子どもらを登録し、当事者や保護者、教育関係者が情報交換できる仕組みづくりを進める。

隅田教授は「コロナ禍で外出できず、子どもが興味を伸ばす機会が失われ、孤立を深めている可能性がある」と指摘。「『もっと学びたい』という気持ちに込められる教育支援環境を用意したい。教育全体の質の向上にもつながると話す。

おもしろいねんがらほ